

既存経営体が遊休施設を地域の担い手へ継承し、地域ブランド豚の生産を拡大

(愛媛県)

- ・既存経営体(農業団体)が施設整備事業を活用し、遊休施設の補改修、豚舎等の新規整備を行い、地域の担い手へ継承(貸付け)。
- ・地域の担い手は、継承(借入れ)した豚舎等を活用し、地域ブランド豚の生産拡大に取り組む。

現状と課題

既存施設の遊休化

既存経営体(農業団体)



遊休施設(豚舎)を有効活用したい。
担い手を確保したい。

養豚経営(担い手)

規模拡大を図りたいけれど、費用負担が課題。



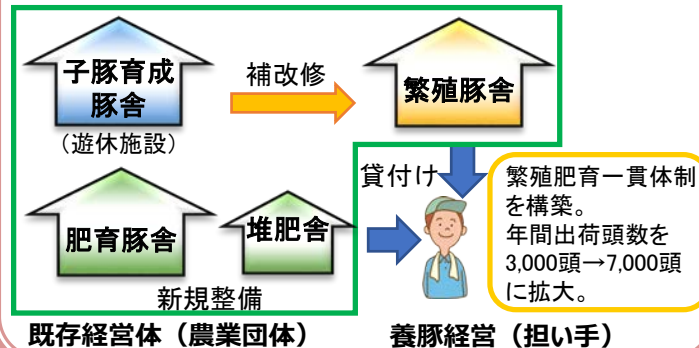
課題 遊休施設の有効活用

- 既存施設は老朽化が進み、作業効率が悪く、現状のままでは活用が困難。
- 規模拡大の意向がある担い手はいるものの、費用負担が課題。

施設整備事業の活用

遊休施設を補改修し、地域の担い手へ継承

既存経営体(農業団体)が事業を活用して遊休豚舎を補改修し、併せて新たに豚舎等を整備し、地域の担い手に継承(貸付け)。



効果 遊休施設を地域の担い手へ継承

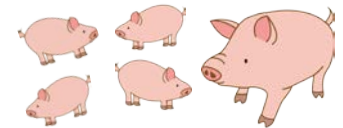
- 遊休施設の解消(担い手への継承)
- 豚舎等を継承(借入れ)することで、担い手は費用負担の軽減を図りつつ、規模拡大に取り組むことが可能。

今後の展望

担い手の定着と地域ブランド豚の生産拡大

展望 地域ブランド豚の生産・販売拡大

- 多産系種豚を導入し、効率的な子豚生産を行い、地域の肥育経営に子豚を供給。



- 地域でブランド豚の生産拡大・安定供給に取り組む。

- JA等と協力して、加工品の開発や販売戦略の強化に取り組む、販路の拡大を図る。

